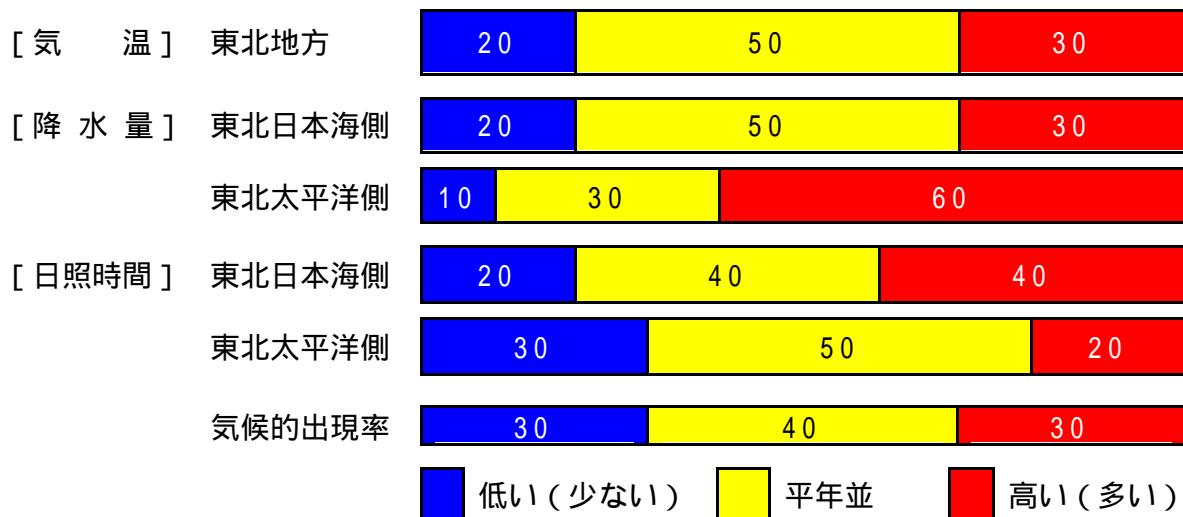


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：7月8日～8月7日）

平成12年7月7日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方では「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「高い」で、その確率は 30%です。「低い」の可能性は 20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 60%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 10%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう1か月

梅雨前線の活動は不活発の見込みですが、明日（8日）から明後日（9日）にかけては台風第3号の影響で大荒れとなるでしょう。また、東北太平洋側では2週目頃オホーツク海高気圧の影響を受け、天気がぐずつくでしょう。東北日本海側では平年より晴れる日が多いですが、東北太平洋側では、平年と同様に曇りの日が多い見込みです。

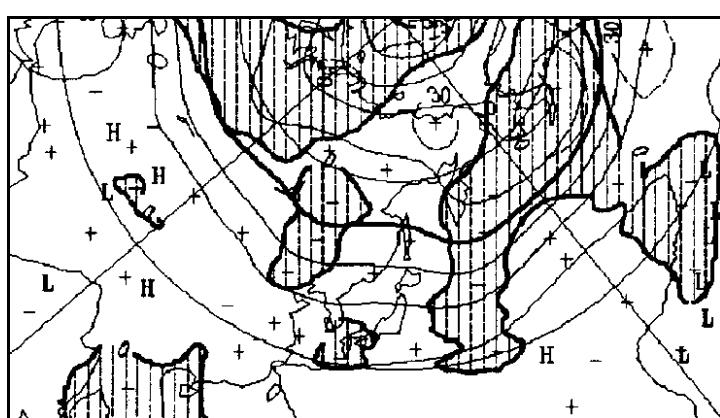
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約 16 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 明日(8日)から明後日(9日)にかけては、台風第3号の影響で、
(7月8日～7月14日) 大荒れの天気となるでしょう。その後は晴れますか、期間の後半には
気圧の谷の影響で天気がくずれるでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約3日です。
- 2週目…………… 前線の活動は不活発でしょう。東北日本海側では晴れる日が多いで
(7月15日～7月21日) すが、東北太平洋側では、オホーツク海高気圧の影響をうける時期が
あり、曇りの日が多いでしょう。
平均気温は平年並でしょう。
平年の晴れ日数は東北地方で約3日です。
- 3～4週目…………… 前線の活動は不活発でしょう。東北地方は、高気圧に覆われ晴れる
(7月22日～8月4日) 日が多い見込みですが、東北太平洋側では一時オホーツク海高気圧の
影響を受けるでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約8日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



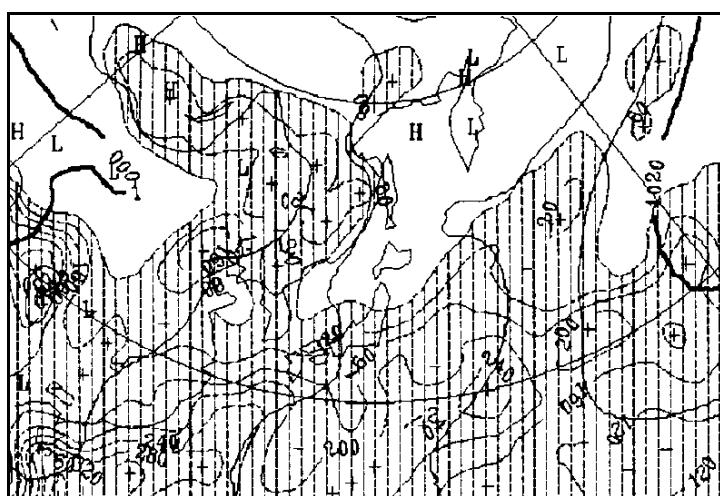
月平均の500hPa高度・偏差
(等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

・500hPa高度・偏差

月平均でみると、日本付近は平年並～弱い正偏差。日本付近は等高度線の間隔が広く、偏西風の蛇行が小さく、前線の活動は不活発となる見込み。

サハリン付近から北は弱い気圧の尾根となっており、一時オホーツク海高気圧の発生することが予想されている（ただし今回のモデルの信頼度は小さい）。

週別（図略）に見ると、サハリン付近の気圧の尾根は、2週目にややはっきりする。また、3～4週目は太平洋高気圧が、北へ勢力を強める。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

・地上気圧と降水量

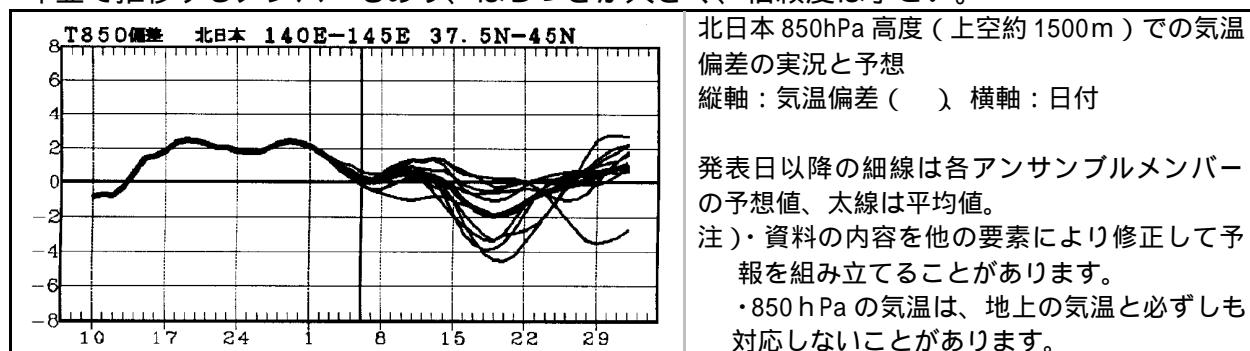
月平均でみると、本州の南の太平洋高気圧は北緯30度以南で西へ張り出す。一方、カムチャッカ半島の西にはオホーツク海高気圧があり、本州付近は相対的に低圧部。

日本の南には強い降水域があるが、東北地方には強い降水域はからない。

週別（図略）では、2週目オホーツク海高気圧が北日本に張り出し、この頃東北太平洋側では影響を受ける時期がある見込み。

3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、2 週目に平年を下回るほかは、平年並か高めで推移する。2 週目は強い低温を予想するメンバーもあるが、平年並で推移するメンバーもあり、ばらつきが大きく、信頼度は小さい。



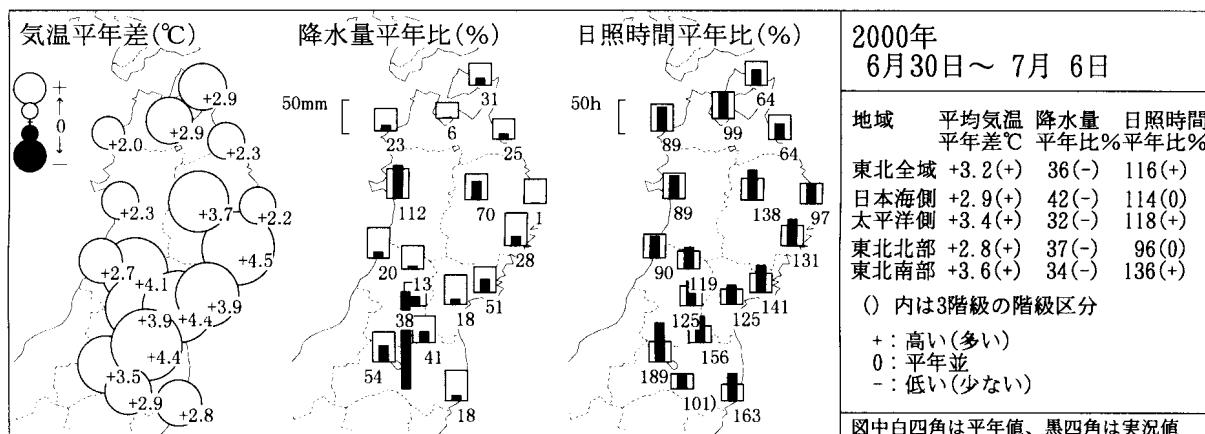
注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（6月30日～7月6日）の天候の経過

この期間、30～1日は、梅雨前線が東北北部に停滞し、東北北部では曇りや雨のところが多くなったが、東北南部では概ね晴れた。その後は高気圧に覆われ、東北地方は晴れて暑い日が多くなったが、上空に寒気が入り大気の状態が不安定となったため、所々で雷雨となった。4日は岩手県では降ひょうにより農作物に被害が発生した。

なお、青森県では5月半ばから、宮城県や山形県では6月半ばから少雨の状態が続いている。

平均気温は、東北地方で平年差+3.2 と平年より高かった。降水量は、東北地方で平年比36%と平年より少なかった。日照時間は、東北北部で平年比96%と平年並、東北南部で平年比118%と平年より多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

5. 梅雨明けについて

	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	7月23日頃	7月24日頃
東北北部	7月26日頃	7月26日頃